

編集後記

70才以上現役世代並所得者の窓口負担3割、後期高齢者医療制度、療養病棟入院基本料見直し等、医療費抑制が叫ばれています。診療収益抑制による診療施設やそこで働く医師を含む従業員の再編成が、受益者格差を増悪しないことを望みます。

恒例になりました今回の特集は、「平成19年新潟県中越沖地震とその災害対策」で、たくさんの病院の皆様より投稿をいただき感謝しております。特に震央柏崎市の刈羽郡病院小林院長よりは論文形式の原稿をいただき有難うございました。毎年、次の特集をどのようにしようかと悩んでおりますが、本部からの指導をいただき、どうにか巻頭の体裁を保っております。

本号には多彩な職種よりの投稿をいただき感謝いたしておりますが、校正する立場からは、本号の豊栄病院増子看護師他の症例報告「マゴットセラピー」の内容はショッキングでした。それにも増して、職業倫理指針としての人格の尊重と、フィンの危機理論を各相で事例解析されており、すばらしい看護記録でした。心理学者マズロー・フィンクによる行動科学理論は労務管理にも応用されておりますが、究極の動機づけとしての目標管理・成果主義による「心の悩み」を招来し、昨今は、厄介者の理論でした。が、改めて、評価されるべき理論と再認識できました。

ところで、振り返ってみれば、本誌は、22年前の1984年に創刊され、2008年17巻1号を含めて17巻21冊目の発刊となりました（拍手）。2005年より、JA新潟県厚生連医誌の内容は、電子版として、インターネット上で既刊全論文が読めるようになりました。従来同様、厚生連医誌はJA新潟県厚生連本部のホームページ、または、旧病理センターのホームページから検索できます（<http://www.nkp-center.jp/>）。具体的利用方法は前16号（2007年）を参照してください。2006年より、本誌内容は、日本最大の（特定非営利活動法人）医学中央雑誌刊行会（医中誌）に掲載され、収録検索できることとなりました（医中誌、<http://www.info@jamas.or.jp>）。新潟県内からは25雑誌が収録されており新潟県厚生連医誌は新潟県内での26番目の登録雑誌で、全国厚生連内では第3番目の登録雑誌となりました。2007年には、他施設より当雑誌内容の抄録利用許諾を申し込まれるようになり、良好な外部評価を受けていることを実証することができました（兵庫県立大学看護学研究科「災害看護文献検索システム」<http://www.coe-cnas.jp/bunken/>）。今後、益々、新潟県厚生連における最新の学術情報を充実し、リアルタイムで発信できるようにしたいと存じます。

平成19年度厚生連医誌編集委員会委員名簿一覧表

担当	氏名	所属	職種
編集委員長、 英文抄録文責	五十嵐俊彦	長岡中央総合病院病理部	病理医
編集委員	石田俊太郎	上越総合病院透析室	臨床工学技士
	若林富士昭	刈羽郡総合病院放射線科	診療放射線技師
	高野 暁子	魚沼病院栄養科	管理栄養士
	増田 聡	長岡中央総合病院総務課	事務員
	目黒 文	長岡中央総合病院リハビリテーション科	言語聴覚士、医療事業士
	中山 雄二	三条総合病院歯科	歯科医
	徳間 一夫	三条総合病院薬剤部	薬剤師
	小林 光重	豊栄病院臨床検査科	臨床検査技師
	村山 裕一	村上総合病院外科	外科医
	斎藤 敬子	中央看護専門学校	看護師
管理責任	石附千代子	本部人事部兼教育研修課	看護師
電子版管理	長谷川秀浩	長岡中央総合病院病理部	臨床検査技師

（文責 五十嵐俊彦）